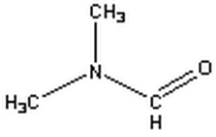
安全データシート

作成日：2001 年 3 月 12 日
改訂日：2026 年 11 月 9 日

1. 化学品及び会社情報	
製品名	DMF
化学品の名称	N,N-ジメチルホルムアミド
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪市中央区安土町 3-5-13
電話番号	06-6563-7710
ファックス番号	06-6563-7720
緊急連絡電話番号	06-6563-7710
推奨用途及び使用上の制限	ウレタン系合成皮革，分析化学用・有機合成用溶剤／溶剤［ウレタン系合成皮革用，スパンデックス繊維用，分析化学用（溶媒，ホルミル化試薬），染料中間体・農薬・医薬合成用，各種ポリマー用（アクリロニトリル型重合体，ウレタン樹脂等），特殊インキ，繊維製品プリント用（リンタングステン酸と化合したローダミンやビクトリアブルーなどの色素を溶かす）］，触媒（セルロースのアセチル化），ガス吸収剤（ブタジエン，アセチレン，エチレン，プロピレン，亜硫酸，硫化水素，青酸，三フッ化ホウ素，無水硫酸）

2. 危険有害性の要約	
GHS 分類	JIS Z 7252：2025 及び JIS Z 7253：2025 に基づく分類
物理化学的危険性	引火性液体　区分 3
健康に対する有害性	急性毒性（経皮）　区分 4 急性毒性（吸入：蒸気）　区分 3 皮膚腐食性／刺激性　区分 2 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　区分 2 発がん性　区分 1B 生殖毒性　区分 1B 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　区分 1（呼吸器、肝臓、消化管） 特定標的臓器毒性（反復ばく露）　区分 1（肝臓） 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない又は分類できない。
環境に対する有害性	区分に該当しない
GHS ラベル要素　絵表示	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	H226　引火性液体及び蒸気 H312　皮膚に接触すると有害 H331　吸入すると有毒 H315　皮膚刺激 H319　強い眼刺激 H350　発がんのおそれ H360　生殖能又は胎児への悪影響のおそれ H370　呼吸器、肝臓、消化管の障害 H372　長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障害
注意書き　安全対策	P201　使用前に取扱説明書を入手すること。

	P202　全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P210　熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 P233　容器を密閉しておくこと。 P240　容器を接地しアースをとること。 P241　防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。 P242　火花を発生させない工具を使用すること。 P243　静電気放電に対する措置を講ずること。 P260　ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 P264　取扱い後は手をよく洗うこと。 P270　この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P271　屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 P280　保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
注意書き　応急措置	P303+P361+P353　皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 P302+P352　皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。 P304+P340　吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 P305+P351+P338　眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P308+P311　ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。 P308+P313　ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。 P311　医師に連絡すること。 P312　気分が悪いときは医師に連絡すること。 P314　気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 P321　特別な処置が必要である（このラベルの…を見よ）。 P332+P313　皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。 P337+P313　眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。 P362+P364　汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 P370+P378　火災の場合：消火するために水噴霧、粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール泡消火剤を使用すること。
注意書き　保管	P403+P233　換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 P403+P235　換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 P405　施錠して保管すること。
注意書き　廃棄	P501　内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
GHS 分類に該当しない他の危険有害性	蒸気は空気より重く、低所に滞留し、離れた着火源から引火するおそれがある。皮膚からも吸収される。

3. 組成及び成分情報	
化学物質・混合物の区別	化学物質（単一製品）
化学名又は一般名	N,N-ジメチルホルムアミド
別名	ジメチルホルムアミド、ホルミルジメチルアミン、ホルミンジメチルアミン、DMF、Dimethylformamide、DMFA、Formamide, N,N-dimethyl-、Formyldimethylamine、N-formyldimethylamine
濃度又は濃度範囲	≧99.9%
分子式（分子量）	C3H7NO（73.09）
化学特性 （示性式又は構造式）	

	HCON(CH3)2
CAS 番号	68-12-2
化審法官報公示整理番号	(2)-680
安衛法（官報）公示整理番号	公表化学物質

4. 応急措置	
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸困難な場合には酸素吸入を行うこと。 直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗った後、多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。 アルコール、ガソリン等の溶剤は使用しないこと（皮膚吸収を促進するおそれがある）。 皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合は医師の診察／手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入：咳、咽頭痛、腹痛、悪心、嘔吐、めまい、頭痛。 皮膚：皮膚から吸収される可能性がある。発赤、皮膚炎。 眼：発赤、痛み。 肝臓に影響を与えることがあり、影響は遅れて現れることがある。飲酒により症状（顔面紅潮等のアルコール不耐性）が増強することがある。
応急措置をする者の保護	救助者は状況に応じて適切な保護手袋、保護眼鏡、呼吸用保護具等を着用すること。
医師に対する特別な注意事項	肝機能障害に注意して経過観察を行うこと。

5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール泡消火剤、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水（火災を拡大させるおそれがある）
火災時の特有の危険有害性	引火性液体であり、熱、火花、火炎で発火するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物等の刺激性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 消火活動に使用した水が排水溝等に流入しないようにすること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏出区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。 適切な保護具（第 8 項参照）を着用し、眼、皮膚への接触や蒸気の吸入を避ける。 密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項	河川、下水、排水溝、土壌等に排出されないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	全ての着火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 少量の場合、乾燥砂、土、不活性吸収材等に吸収させ、密閉できる容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 回収作業には火花を発生させない工具を使用すること。
二次災害の防止策	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い　技術的対策	第 8 項に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
取扱い　安全取扱注意事項	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 防爆型の機器を使用し、容器を接地しアースをとること。静電気放電に対する措置を講ずること。 眼、皮膚、衣類との接触を避けること。 ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
取扱い　接触回避	第 10 項を参照（強酸化剤、ハロゲン、ハロゲン化炭化水素、硝酸塩等）。
取扱い　衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
保管　安全な保管条件	換気の良い冷暗所に保管すること。容器を密閉しておくこと。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。 混触危険物質から離して保管すること。 施錠して保管すること。 消防法の危険物（第 4 類）の貯蔵基準に従うこと。
保管　安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。ある種のプラスチック、ゴムを侵すので容器・パッキン材質に注意すること。

8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	10 ppm
濃度基準値	設定されていない（作業環境評価基準（管理濃度）の対象物質）
許容濃度　日本産業衛生学会（2025 年度版）	10 ppm、30 mg/m3（経皮吸収）
許容濃度　ACGIH（2025 年版）	TLV-TWA：5 ppm（Skin）
設備対策	有機溶剤中毒予防規則に従い、蒸気の発散源を密閉する設備又は局所排気装置等を設置すること。 防爆型の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する措置を講ずること。 取扱い場所の近くに洗眼器及び安全シャワーを設置すること。
保護具　呼吸用保護具	有機ガス用防毒マスク、又は送気マスク等の適切な呼吸用保護具を着用すること。
保護具　手の保護具	皮膚等障害化学物質等に該当するため、不浸透性の保護手袋（ブチルゴム製等、本物質に対して耐透過性を有するもの）を着用すること。
保護具　眼、顔面の保護具	保護眼鏡（側板付き又はゴーグル型）、必要に応じて保護面を着用すること。

保護具　皮膚及び身体の保護具	不浸透性の保護衣、保護長靴等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質	
物理状態　形状	液体
色	無色～黄色
臭い	データなし
臭いのしきい（閾）値	情報なし
pH	6.7
融点・凝固点	-61℃:HSDB(2005)
沸点、初留点及び沸騰範囲	153℃:HSDB(2005)
引火点	58℃(密閉式):NFPA(13th,2002)
蒸発速度（酢酸ブチル＝１）	データなし
燃焼性（固体、気体）	データなし
燃焼又は爆発範囲	2.2 ～ 15.2vol%(100℃):HSDB(2005)
蒸気圧	3.87mmHg(25℃)［換算値 515Pa(25℃)］:HSDB(2005)
蒸気密度	2.52(空気=1) 計算値
比重（相対密度）	0.9445(25℃/4℃):Merck(13th,2001)
溶解度	水、ほとんどの一般的な有機溶媒と混和する。:Merck(13th,2001)
n-オクタノール／水分配係数	logPow=-1.01(測定値):SRC:KowWin(2005)
自然発火温度	445℃:HSDB(2005)
分解温度	データなし
粘度（粘性率）	データなし

10. 安定性及び反応性	
反応性	引火性液体である。「危険有害反応可能性」を参照。
化学的安定性	通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤、ハロゲン、ハロゲン化炭化水素、硝酸塩等と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 ナトリウム、水素化ナトリウム、水素化ホウ素ナトリウム、マグネシウム、塩化チオニル、四塩化炭素等とも危険な反応を起こすおそれがある。 ある種のプラスチックやゴムを侵す。 加熱すると分解し、窒素酸化物等の有毒なフュームを生じる。
避けるべき条件	高温、熱、火花、裸火、静電気放電。引火点（58℃）以上では蒸気／空気の爆発性混合気体を生じることがある。
混触危険物質	強酸化剤、ハロゲン、ハロゲン化炭化水素、硝酸塩、アルカリ金属及びその水素化物、三酸化クロム、過マンガン酸カリウム、トリエチルアルミニウム
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、ジメチルアミン、ホルムアルデヒド

11. 有害性情報	
急性毒性　経口	ラットのLD50値（約2,000～7,170 mg/kg）に基づき、区分に該当しない。
急性毒性　経皮	ウサギのLD50値（500～1,500 mg/kg）に基づき、区分4とした。
急性毒性　吸入：ガス	GHSの定義における液体であり、区分に該当しない。

急性毒性　吸入：蒸気	ラットの 3,700 ppm 吸入ばく露試験（3 時間で死亡 0%、7 時間で 83%）等に基づき、区分 3 とした。
急性毒性　吸入：粉じん及びミスト	ラットの LC50 値（>5,000 ppm 相当）に基づき、区分に該当しない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ヒトにおいて軽微～中等度の皮膚刺激性、発疹を示すとの複数の報告があることから、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギの眼刺激性試験で角膜傷害、結膜炎が見られ、約 14 日後まで影響が持続したとの報告があることから、区分 2 とした。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	マウス LLNA 試験及びモルモット Maximization 試験でいずれも陰性であることから、区分に該当しない。
生殖細胞変異原性	in vivo 及び in vitro の試験の大部分で陰性であり、区分に該当しない。
発がん性	ラット及びマウスの 2 年間吸入ばく露試験（200～800 ppm）において肝細胞腺腫、肝細胞癌等の肝臓腫瘍の発生増加が認められたことから、区分 1B とした。IARC：グループ 2A（IARC 115（2018））、日本産業衛生学会：第 2 群 A、ACGIH：A3。
生殖毒性	マウス、ラット、ウサギを用いた試験において、重篤な母動物毒性がみられない用量で性機能・生殖能及び次世代（奇形を含む）への影響がみられたことから、区分 1B とした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ヒトの偶発的ばく露事例において腹痛、悪心、嘔吐等の消化器症状及び肝線維化等の肝臓への影響が、実験動物において呼吸器への影響が報告されていることから、区分 1（呼吸器、肝臓、消化管）とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	ヒトの職業ばく露（ばく露労働者）において肝機能障害、ラット及びマウスの 2 年間吸入ばく露試験において肝臓への影響が報告されていることから、区分 1（肝臓）とした。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報	
生態毒性　水生環境有害性短期（急性）	魚類（ヒメダカ）96 時間 LC50 >100 mg/L（環境省生態影響試験、1995）等から、区分に該当しない。
生態毒性　水生環境有害性長期（慢性）	難水溶性ではなく（水溶解度 1.0×10^6 mg/L）、急性毒性が低いことから、区分に該当しない。
残留性・分解性	難分解性（化審法既存化学物質安全性点検結果）
生体蓄積性	低濃縮性（化審法既存化学物質安全性点検結果）、logPow=-1.01
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	当該情報なし（モントリオール議定書の附属書に列記された物質ではない）

13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意	
国際規制　国連番号	2265
国連品名	N,N-DIMETHYLFORMAMIDE
国連危険有害性クラス	3
副次危険	該当しない
容器等級	III
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	該当する（汚染分類：Y、品名：Dimethylformamide）
国内規制　海上規制情報	船舶安全法の規定に従う（引火性液体類）。
航空規制情報	航空法の規定に従う（引火性液体）。
陸上規制情報	消防法の規定に従う（第 4 類 第二石油類 水溶性液体）。
特別な安全上の対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	129

15. 適用法令	
法規制情報は改訂日時点に基づいて記載している。事業場において使用する際には、最新情報を確認すること。	
労働安全衛生法	名称等を表示・通知すべき危険物及び有害物 リスクアセスメント対象物 第二種有機溶剤等 がん原性物質（作業記録等の 30 年間保存） 皮膚等障害化学物質等（皮膚吸収性有害物質） 作業環境測定対象物質（管理濃度：10 ppm） 特殊健康診断対象物質（有機溶剤等健康診断） 健康障害防止指針公表物質 危険物・引火性の物
労働基準法	疾病化学物質 女性労働者の就業制限対象物質
化学物質審査規制法（化審法）	一般化学物質
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	第一種指定化学物質（政令番号：1-264）
消防法	第 4 類引火性液体 第二石油類（水溶性液体）指定数量 2,000 L
大気汚染防止法	揮発性有機化合物（VOC） 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質
海洋汚染防止法	有害液体物質（Y 類物質）
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体

港則法	引火性液体類
毒物及び劇物取締法	該当しない

16. その他の情報	
参考文献	NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） 厚生労働省 職場のあんぜんサイト GHS 対応モデルラベル・モデル SDS 情報（N,N-ジメチルホルムアミド） JIS Z 7252：2025、JIS Z 7253：2025 日本産業衛生学会「許容濃度等の勧告（2025 年度）」 ACGIH, TLVs and BEIs（2025） IARC Monographs Vol.115（2018） その他、各データ毎に記載した文献
改訂内容	JIS Z 7252：2025 及び JIS Z 7253：2025 に準拠して全面改訂。 最新の政府による GHS 分類結果（令和 6 年度）に基づき第 2 項、第 11 項を改訂。 第 8 項、第 14 項、第 15 項を最新の法規制情報に基づき改訂。 化審法：優先評価化学物質（通し番号 27）の指定が令和 7 年 3 月 31 日に取り消されたため、第 15 項の記載を「一般化学物質」に変更。
免責事項	本安全データシート（SDS）に記載した内容は、現時点で入手可能な資料及び情報に基づいて作成したものであり、記載内容の完全性及び正確性を保証するものではありません。また、本 SDS は今後、新たな知見や法令改正等により、予告なく内容を変更することがあります。 お取引先各位におかれましては、本 SDS の情報を、当該製品を安全に取扱うための参考情報としてご利用いただき、実際の取扱いにあたっては、自らの用途・使用条件・作業環境等に応じて必要な安全対策を講じるとともに、関連法令を遵守してくださいますようお願いいたします。 本 SDS は製品の品質を保証するものではなく、本 SDS の記載内容に関連して生じた損害について、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。